（一社）日本女性薬剤師会　薬剤師継続学習通信教育講座　スクーリング講座受講状況から見える現在の薬剤師が求めているもの

（一社）佐賀県薬剤師会男女共同参画委員会

〇福島あさ子、横尾京子、青木まり絵、原瑞絵、坂上光広

今泉徳子、吉田珠紀、相良ふみ子、鹿智子、宮地和子

【はじめに】

　薬剤師は統計的に6割が女性である。医薬分業の進展に伴い、薬局をはじめ、女性薬剤師が活躍する医療現場が多くなった。しかし、その中で余儀なく仕事を中断したり、最新の知識習得のための研修会に参加する機会が少ない女性薬剤師が多く存在する。そのような薬剤師の支援として、一般社団法人日本女性薬剤師会（以下「日女薬」という）が企画する研修講座「薬剤師継続学習通信教育講座」（以下「通信講座」という）は、平成16年にスタートした。受講者は、毎月１冊配本されるテキストで自宅学習し、演習問題の解答解説を日女薬生涯学習センターにより添削方式で学ぶ形が当初からのスタイルである。佐賀県薬剤師会も平成16年後期から受講募集を開始し、年に2回、年間15単位の取得の必須条件であるスクーリング講座を開催してきた。今年で15年目を迎え、その間、研修認定薬剤師の導入という法制度の変化もあり、受講者の動向を探ることにした。

【方法】

　通信講座の参加者の変遷を男女別、会員・非会員別、研修形式別に年2回分を集計する。

【結果】

　当初から、通信講座受講者は前期・後期のいずれかに参加しているが、集合研修としての一般の参加者も一定に推移している。特に通信講座受講者の中には、県外から受講の方も多く、福岡、長崎の隣県が開催していないことも影響している。男性薬剤師参加も微増していることも分かった。

【考察】

県薬では数多くの研修会が開催されており、多くは平日の19時半から始まる研修会である。このスクーリング講座は日曜日に4講座受講できることもあり、研修会に参加しづらい環境の薬剤師にとって、魅力があると考えられる。また、内容も疾患別のガイドラインに沿ったテキストで、最新の薬物療法が習得できる。専門医、看護師、栄養士、薬剤師の他、様々な職種がそれぞれの立場から解説する構成である。講師はほとんど専門医に依頼しており、好評である。男性薬剤師を含めて研修会弱者と言われる人たちの支援を継続していくことで、患者への薬学的知見を提供できる薬剤師への一助としたい。全ての薬剤師が、国民をはじめ、他の医療職からの信頼と期待に応えられるだけの力をつける必要がある。私たちは、医療の担い手である『薬剤師』である。

キーワード　通信教育講座、研修会弱者